



踊り終えた出場者は、「一年間これを楽しみにしてきた」「スポットライトが当たって緊張した」など笑顔で感想を述べていました



本市からは中田町の及川結生さん（右）と迫町の佐々木あすかさんが出場。若さあふれる踊りを披露してくれた2人には、審査員特別賞である奨励賞が贈られました



ステージで、次々と披露される地域独自のおいとこ踊りを見つめる会場の皆さん



審査委員長から「今年は点数を付けるのが難しかった」と講評が述べられた今大会。雨の中にもかかわらず会場は大勢の皆さんが訪れ、出場者に大きな拍手を送っていました

**宮城県知事賞**  
須藤ミキ子さん（80歳）  
（一関市藤沢町）

今年で3回目の出場です。おいとこ踊りは、19歳の時に迫町の先生に教わったもの。「踊りの盛んな町の踊りを覚えなさい」という両親の言葉を思い出しました。

**登米市長賞**  
安岡次子さん（81歳）  
（一関市千厩町）

今年で4回目の出場です。今年舞台が明るく、楽しく踊ることが出来ました。81歳という年齢でこのような賞に選ばれるなんて夢のようです。



毎年恒例の大会前のおいとこ行列。今年は雨天により屋内で実施しました

**もりむら**  
森邑おいとこ

おいとこ そうだよ  
紺ののれんに  
伊勢やと 書いてだんよ  
お梅 十六  
十代 つたわる  
粉やの 娘だんよ  
あの娘は よい娘だ  
あの娘と 添うなら  
三年が 三月でも  
裸で茨も背負いましよ  
水も 汲みましよ  
手鍋も さげましよ  
なるたけ 朝に早起き  
のぼる 東海道は  
五十と三次  
粉箱やつこらさと担いで  
歩かにな なるまい  
おいとこ そうだんよ